令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
68	川崎市立久地小学校	小林 智子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標		
子どもたち一人一人の笑顔が輝く学校 〇よく考え 工夫する子 ＜かしこく＞ 〇なかよく はげましあう子 ＜やさしく＞ 〇たくましく ねばり強い子 ＜たくましく＞ 〇めあてをもち 学び続ける子 ＜やりぬく＞	確かな学力の育成 豊かな心の育成 健やかな心身の育成 主体的な態度と実践力の育成 家庭・地域との連携	・・・ ・・・ ・・・ ・・・ ・・・	共に学び、高め合う喜びを実感できる授業づくり 豊かな人間関係を築く教育の充実 心身ともに健康な生活を自ら実践する態度の育成 夢や希望をもち主体的に活動する態度の育成 開かれた学校づくり

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	確かな学力の育成	見通しと振り返りを大切にし、主体的な学びの実践に取り組んだ。	単元の見通しをもって学習することで、主体性が育ってきた。振り返りを大切にすることで、身についた力を意識することができた。1年間、小学校6年間の見通しを意識し、身についた力を活用しながらさらに伸長していけるようにしていきたい。	教員が長期の見通しをもって、身に付けさせたい力、育てたい力を明確にした教育活動を実践する。振り返りを通して身についた力を児童に自覚させ、それが他の単元や教科、生活の中で使える力となるよう工夫する。
2		教科等横断的な視点を大切にし、カリキュラム・マネジメントを推進した。行事や生活と学習のつながりを大切にした。	目的意識や相手意識を大切にした学習活動が展開できた。使える知識・技能が身につくよう意識した。学習の系統性を考えた指導をより充実させていきたい。	年間の見通しをもって、教科と教科、教科と生活の関連を図っていく。
3		交換授業や専科授業等、協力指導を推進し、より質の高い学習を工夫した。	充実した教材研究ができたことで授業の質が向上した。多数の教員が関わることにより、多様な視点からみて児童理解、児童支援へつなげることができた。スケジュール調整が複雑となったことが課題である。	協力指導を継続していく。低学年においても、発達段階を考慮しながら、部分的に取り入れていく。
4	豊かな心の育成	かわさき共生＊共育プログラムや人権尊重教育、SOS出し方受け止め方研修、命を大切にする教育等を通して、自他ともに認め合い尊重し合う心の育成に努めた。	自他の思いや考えを尊重し、想像したり思いやったりする大切さは理解できるようになっている。意識したことが実際の言動に表れるようになってきている。	学びと生活、言動がつながるようにしていく。まずは教員が見取り、意図的に価値づけたり、話し合い振り返ったりする機会を設けていく。
5		異学年交流や幼保小連携、地域との関わりなど多くの人との交流を通して他者理解や思いやりの心、自尊感情を育成するようにした。	様々な年齢、立場の人々との関わりを通して、多様性について学んだ。適切な関わりのあり方について考える機会となっている。	体験を通した学び、実感をともなう学びの機会を充実させる。
6		あたたかな聴き方・やさしい話し方を実践した。	聴く姿勢が身につき、互いの思いを受け止める態度が育った。自らの思いを適切に伝わるように発信する力については課題が残る。	思いを発信する機会を設けていく。様々な表現方法に出合えるようにしていく。
7	健やかな心身の育成	学校生活の約束やマナーを意識し、みんなが気持ちよく生活できるようにした。	職員が率先して声をかけることにより、児童にも気持ちの良い挨拶が広がっている。継続し、学校の風土となるよう絶やさないようにしていきたい。登校時刻や始業時刻など時間への意識は努力中である。	職員が手本となり、積極的に実践していく。授業時間の始まりを守るよう教職員全員で意識を高めていく。時程の掲示、タイマーの活用など目に見える工夫をしていく。
8		学習、生活の両面で、具体的な目標と振り返りを大切に結果だけでなく過程を重視した。挑戦する意欲や粘り強く取り組む態度の育成に努めた。	生活目標の具現化に向けて、クラスや個人の目標と振り返りを継続した。具体的な目標をもち、振り返りをすること、それを言語化することで意識が高まった。目標に向かう取組の調整や粘り強さについては児童自らも自覚している課題である。	目標と振り返りはもちろん、途中経過、経緯にも目を向けていく。目標や取組を途中で修正したり変更したりすることも実践を通して気づかせていく。
9		食育や保健指導など健康教育を実施した。委員会が主体となって活動を工夫し運動習慣の確立に努めた。児童が自らの心身の健康を意識できるようにした。	自らの健康について振り返ったり適切な在り方について学んだりした。ゲームやYouTube、SNS等との付き合い方に課題がある。	情報モラルについて、全学年で内容や方法の見直し・改善を行っていく。児童の心身の健康・安全について、観察、対話、アンケートなど多様な方法で把握していく。

10	主体的な態度と実践力の育成	児童会活動や学級活動等を中心に、主体的・協働的な活動を実践した。	児童の思いから生まれる活動を重視した。企画が実現できるように支援・指導した。	創立60周年に向けて、児童の思いを大切にし、思いが実現できるようにする。年間の見通しをもって取組を進め、学習や行事との連携を図ることで、自然な流れにする。
11		児童が安心して学校生活を送ることができるよう、一人一人の教育的ニーズに合わせた学びの実践、支援を行った。	困り感のある児童に対して、学級担任以外も多くの教員が関わり、寄り添ったり支援したりした。安心できる場所や環境、方法を整えるよう努めた。ニーズの多様化に対応するだけの人的、物的環境が十分ではない。	児童の小さな変化を察知し、早い段階で支援教育コーディネーターをはじめチームで対応できるようにする。別室登校と所属学級の連携を深める。
12	家庭・地域との連携	学校運営協議会やPTA、家庭や地域との連携を大切にした。学校教育活動の方針や意義、状況について情報を開示し、連携して教育活動を実施した。	積極的に情報を発信し、助言や助力をいただくことができた。多忙化等もあり、関わりや協働するための方法等、模索中である。	引き続き、積極的に情報を発信していく。保護者が必要な情報を必要な時に得られるよう、工夫する。無理なく、途切れず、連携できるよう、協働の方法も工夫していく。
13		来年度の創立60周年に向け、地域に目を向けた学習活動を展開した。	自分の学校や地域に対する愛情が感じられる。来年度の周年行事に向けて、さらに深めていく。	学校、家庭、地域との連携を深めていく。周年行事を機会に、思いを交流できる機会としていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・挨拶がよくでき、積極的に人と関わろうとする姿勢がみられる。地域でも関わりを広げたり深めたりすることで、その良さの伸長に協力したい。 ・一人一人が、自分に合った方法で学んでいる。学習の個性化が見られる。「自分の思いや考えを進んで発信する」課題についても、それぞれにあった方法で表現できるように育てていくとよい。 ・「自分たちの学校や地域が好きである」という傾向は、地域として誇らしく、今後も大切にしてほしい。 ・60周年に向けて子どもたちが主体的に活動していて素晴らしい。スローガン等も久地小の子どもたちらしく、良さを伸ばしながら進めてほしい。	・学校全体で、協力して教育活動が行えるよう、方針や意義の共有、組織の編成、環境の整備に努めた。 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、指導・支援方法の共有、環境の整備等工夫することができた。さらに充実させていく。 ・自ら課題を持ち、自分の思いや考えを丁寧に言葉に表し、対話を通して問題解決する学習を大切にした。生活面においても、児童同士が話し合い、問題解決に向かえるようになってきている。言語解決能力が少しずつ育っている。 ・不登校児童、登校渋りの児童等への支援方法をはじめ、一人一人のニーズに合わせたきめ細やかな支援や指導の重要性を感じている。小さな変化をいち早く察知し、職員や関係機関が連携し迅速に対